143　　医療法人創起会　くまもと森都総合病院　　遠山　亮佐

① 症例　Solid pseudopapillary tumor （38 歳、女性）

② 既往歴　なし

③ 臨床経過　数年前より右の背部痛を自覚。本年 2 月健診施行。肝腫瘍を指摘され精査目的で当院受診。CT,MRI にて肝腫瘍および膵尾部腫瘍を指摘。肝腫瘍は画像診断で良性病変の診断。膵腫瘍は特定診断が困難であったが、本人の希望もあり 5 月に腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術施行。

④ 検体、材料　膵腫瘍捺印

⑤ 細胞診所見　スライド① 小型で N/C 比が高く、核は円～類円形、核クロマチンは細顆粒状、一部ごま塩状様、細胞質はライトグリーン淡染性で細胞境界不明瞭。
スライド②小型で異型に乏しく、好酸性の細胞質をもつ集塊を認めるが、標本作製時付着した、正常の腺房細胞と思われる。
スライド③血管間質様の所見を認めるも、これを軸にした増生像ではない。
スライド④背景にメタクロマジーを呈する球状物質を認めるが、mixoid な間質を伴う変化は認めない。

⑥ 組織所見　スライド⑤被膜のない結節性病変で、周囲膵組織に対しやや圧排性に浸潤。
スライド⑥充実性胞巣状パターンをとって増殖する、比較的細胞質の明るい均質な円形の核を有する像。出血部と近傍では血管間質を比較的多く認めるが、出血部や間質を軸とする偽乳頭状構造は認めない。
免疫染色で、上皮性マーカー全て陰性,NSE,NCAM 陽性。ｸﾛﾓｸﾞﾗﾆﾝ A、ｼﾅﾌﾟﾄﾌｨｼﾞﾝ陰性。βｶﾃﾆﾝ核・細胞質に陽性。その他 CD10, α1-antitrypsin cyclinD1,Vimentin 陽性。以上より Solid pseudopapillary neoplasm の診断

⑦ 鑑別点　NET,腺房細胞癌などが鑑別点にあがる。特徴的な所見が出現している場合 SPT では血管間質を軸とする偽乳頭状構造、ACC ではチモーゲン顆粒による細胞質の好酸性、強い結合性集塊の出現、NET では核クロマチンのごま塩状パターンなどで鑑別可能であるが、充実配列部から採取された場合鑑別困難となることが多い。SPT では腫瘍本体の細胞像とともに、背景の嚢胞状変化や毛細血管性の間質出現が重要な所見となるが、今回経験した退行性変化の少ない（早期）SPT も念頭に入れ内分泌腫瘍などと鑑別する必要があると思われる。

文献　1）膵癌取扱い規約第 6 版　2）病理と臨床 2013 3 Vol.31 No3
3）吉岡ほか:胆と膵 2222::4545-52,200152,2001 など